

久留米大学を受診した患者さんへ

「久留米大学病院感染制御科コンサルテーション症例における薬剤熱症例の検討」の研究に使用する試料について

この研究では、久留米大学を受診し、手術・検査の際に採取し保存されている以下の試料を使用します。

- 1) 期間：2014年4月から2020年3月
- 2) 受診科：感染制御科
- 3) 対象疾患名：薬剤熱症例
- 4) 使用する試料：診療記録

あなたの試料を今後の医学の進歩のために研究に使用させていただきたくお願い申し上げます。研究の内容の詳細は以下のとおりです。

研究内容をよくお読みになり、もし研究にご協力いただけない場合は、お手数ですが下記の連絡先までご連絡ください。

研究ご協力の撤回受付は研究成果の公表前までとなります。

ご了承くださいませよう、お願い申し上げます。

1) 研究組織：

所属：久留米大学 感染制御学講座

研究代表者：久留米大学 感染制御学講座 教授 渡邊 浩

研究分担者：

久留米大学 感染制御学講座

講師 升永 憲治

助教 八板 謙一郎

久留米大学病院 薬剤部

副主任 酒井 義朗

2) 研究の意義と目的： 当科は2014年度300を超える外来・入院症例のコンサルテーションに携わってきました。この中で感染症以外の疾患で発熱をきたす症例を経験することも少なく、特に散見されるのが薬剤（抗菌薬）による薬剤熱であり、抗菌薬に反応しない、むしろ抗菌薬投与により発熱をきたす症例で疑い、抗菌薬終了・変更とともに解熱を得ることができます。

海外では薬剤熱に関する大規模なレポートも見られますが、日本では1988年、1989年にそれぞれ邦文、英文での単施設での報告以降、我々が調べた限りではまとまった報告がございません。その後抗菌薬の種類も増加しており、レポートが発表されたころにはなかった抗菌薬での有害事象も含めて現在の薬剤熱の状況を知ることは、感染症コンサルテーション

だけでなく、各科の診療医の知識として有用であると考えられます。

3) 研究の方法：後ろ向き研究（症例報告）・前向き研究（症例報告）

4) 研究期間：平成 27 年 4 月倫理委員会承認後～平成 32 年 3 月

5) 上記の試料の使用を選定した理由：薬剤熱の特性について明らかにするため。

6) プライバシー保護・人権保護・倫理的配慮について：名前、イニシャル、住所、正確な入院の日付について記載はしません。

7) 研究成果の発表の方法：学会や論文形式で発表します。

8) その他：特記事項なし

9) 事務局、問い合わせ、連絡先：

久留米大学病院感染病学講座 助教 八板 謙一郎

研究番号 14267